

○ 輸入栽培用種子中の未承認遺伝子組換え体検査対策事業委託費

【令和7年度予算概算決定額 7（7）百万円】

<対策のポイント>

未承認遺伝子組換え（GM）農作物の流入を的確に防止する観点から、栽培用種子等の輸入時の検査に利用可能な検査法を開発します。

<事業目標>

未承認GM栽培用種子の我が国への侵入を阻止し、生物多様性への影響を防止

<事業の内容>

未承認GMの検査法の開発

海外で遺伝子組換え体が開発中・栽培が許可されている作物を対象に、DNA抽出方法等を検討するとともに、抽出したDNAから遺伝子組換え体を検知可能な検査試薬を作成することにより、当該作物の検査法を開発します。

また、輸入実績等の観点から簡便で迅速な検査が求められる未承認GMについては、LAMP法※を用いた検査法を開発します。

※LAMP法：既存の検査法より簡便で迅速に検査できるスクリーニング法

<事業の流れ>

国

委託

民間団体等

<事業イメージ>

カルタヘナ法に基づく輸入時の遺伝子検査

STOP !

未承認GM農作物の栽培用種子等の流入をこれまでに24件防止
(パパイヤ10件、ワタ14件)

流入防止のため、新たな検査法の開発が必要

- ・ワタ（LAMP法）
- ・ペポカボチャ（LAMP法）
- ・ケンタッキーブルーグラス（LAMP法）
- ・トールフェスク（LAMP法）
- ・米国、中国等で承認され、我が国で未承認のダイズ、トウモロコシなど 等

生物多様性への影響を防止